

1 学校教育目標

○よく考え進んで実行する子 ○なかよく助け合う子 ○心も体もきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら学び、自ら考え、学ぶ意欲を育成する学校 ・心と体の健康づくりを進め、豊かな人間関係を育成する学校 ・保護者・地域・教職員が互いに尊重・理解し合い、協働で児童を育成する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、考え、判断し、問題を解決しようとする児童 ・素直で明るく、優しく、進んであいさつができる児童 ・お互いに、心を耕し、体を鍛え、高め合う児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の心が分かり、熱意と使命感のある教師 ・どの子も分かる喜びをもてる授業をつくり、自らも学び続ける教師 ・組織人としての自覚をもち、主体的に学校運営に参画する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 学校…児童一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために個別指導に力を入れている。学習直後は定着が図られ、児童の自己肯定感も高まっているが、読解力に課題がある。特色ある教育活動として、落語や俳句、百人一首、将棋等の伝統的文化活動を積極的に進めている。
- 児童…明るく素直な児童が多く、落ち着いて学校生活を送っている。自ら考え、主体的に取り組む姿勢を育てていきたい。
- 教師…日々の教育活動に熱心に取り組み、授業改善を図っている。外国語活動・外国語の校内研究にも熱心に取り組み、授業力向上を目指している。
- 地域・保護者…昨年度創立120周年という節目を迎え、また新たな歴史を刻み始めた。家庭との連携をさらに密にし、基本的生活習慣の定着に努めている。PTA、開かれた学校づくり協議会、放課後子ども教室、学習支援ボランティアなど学校への理解が厚く、協力的であり、日々支えられている。

【成果と課題】

- 学力向上…学力向上部会を中心に、全校で基礎学力の定着・向上に邁進した。その結果、当初の区学力調査結果の数値が12月の再実施では、国語・算数ともに4月調査の結果より+8.2%になった。さらに2月に実施した本年度（現学年）の区学力調査通過率では、区平均より-1.3%となった。今後の課題は、引き続き基礎的・基本的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導を充実させることと、全児童に読解力をつけていくこと。また、地域や地域人材を活用し体験的活動を一層推進していく中で、児童が知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を高め、主体的・協働的に学ぶ学習を目指していく。
- 健康な心身の育成…あいさつを重視して、温かな人間関係を育ててきた。児童は全般的に明るく元気に生活しているが、思いやりの心をさらに育てたい。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には、全校で共通理解を図りながら組織的に対応してきた。コロナ禍でもあり、体力低下は顕著である。日頃から体力向上を意識し、計画的に取り組んでいく。
- 家庭・地域との連携…地域の幼稚園・保育園とできる範囲で交流することができた。コロナ禍ではあるが、地域や地域人材を活用した学習を進めることができた。今後も地域の中の洲江小学校として活動し、学校愛・地域愛を育てていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	◎	◎	◎
2	健康な心身の育成	○	○	◎	◎	○
3	家庭・地域との連携	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
国語・算数の基礎的・基本的な学習内容の定着		4月には国語・算数共に80%、9月の再調査では、90%の通過率を目指す。		4月は国語 78.4%、算数 81.1%、2教科計 79.7%。10月は、国語 86.7%、算数 89.6%、2教科計 88.2%。		4月は四捨五入すると目標通過率を達成。再調査は9月の予定を10月に延期して実施した。目標90%には-1.8だが、各学年学習してきた成果を出すことができた。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	けやきタイム	国語 ・算数	週1時間	全学年の担任が読解力に特化した指導とつまずき解消に向けた指導を行う。	区学力調査年度末の目標通過率80%以上	年間30回以上実施する。	年間31～35回実施。年度末2教科平均83.7%の通過率。	次年度も引き続き実施し、充実を図る。	◎
2 改善	パワーアップタイム	国語 ・算数	火:計算 水:読書 木:漢字 金:作文 朝の会 開始前 15分。 音読水 曜以外 7分	火曜・木曜はAIドリルの活用で個に応じた漢字・計算の学習と音読、水曜は読書、金曜は短作文に取り組ませ、読み・書き・計算の力を身に付けさせる。	・管理職による確認	1年のみ6月から。2年以上は、4月から各担任が100パーセント実施する。	全学級 100%実施できた。	パワーアップタイムの運営研修会を実施し、全学級で共通理解して取り組んだ。短作文により、短時間で自分の考えをまとめる力がついてきた。AIドリルを活用し、個に応じた取り組みを実施した。	◎

3 改善	放課後補習 教室 (けやき教室)	国語 算数	火・金・ の週2 回設定	<p>【指導者体制】 担任+専科+COM 教員</p> <p>【取組のねらい・目的】 つまずきのある児童の 補習を行う。</p> <p>【使用教材】 次へのステップ、ベーシ ックドリル等</p> <p>【どのように】 SP 表分析や単元テスト を基に、つまずきをさか のぼり、演習を中心に個 別指導で学力に課題のある 児童の補習を行う。</p>	1回30分×年 間40回以上	補習開始時と 終了後の確認 テストで正答 率を50%以上 引き上げる。	年間47回実施した。 指導前後の確認テ ストから50%以上引き 上げ、正答率(実施 後)を概ね80~100% にすることができ た。	事前に保護者に手紙を 配布し、全学年一致し た行動で取組、確実に 実施した。算数では、 SP 表分析や単元テ ストの結果を放課後の 指導に活用した。定 着の図れた児童を途 中で卒業させ、新規 児童を入れるなど、 柔軟に対応できた。 今後もつまずき解消 に努めていく。	◎
4 継続	ICT を活用 した授業	全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用した授業を行い、児童の意欲を高め、深い学びにつなげる。 ・授業の中でICTを活用する。 ・ICT 担当による校内研修。 	授業観察時に タブレットを 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自己申告時に1回以上授業実践。 ・校内研修を年3回実施。 	3回の授業観察の中 で1回以上、タブ レット活用の授業を行 った。	夏休み中にロングの 研修を3回実施し た。担当がICT通信 を年8回発行し、全 教職員が授業と校務 で活用している。	○
5 改善	教員の授業 力向上	全学年	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招聘しての授業研究(8回)、研修(2回)、発表(1回) ・足立スタンダードを基本とした授業力の向上 ・教科指導専門員と管理職による授業観察 	授業研究・研修 会を10回実施。	指導案作成、授業 観察により授業 力を評価。	「指導力向上中核 校」として年間12回 の研修会(研究授業 年8回、研修3回、 研究発表1回)を実 施することができ た。	担当教員主導のOJT 研修も12回実施し た。年間3回の授業 観察も実施した。教 員は、授業力向上に 努めた。	◎
6 新規	算数・漢字 コンテス ト	全学年	夏・冬休 み前	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前に「算数・漢字コンテスト」として定着度テストを実施する。 	年2回実施	80%で合格。不 合格者は、休業 明けに再テ スト実施。9割の 児童が合格。	年2回実施。夏は漢 字88.5%、計算91% 合格。冬は漢字 89.2%、計算91.6% 合格。	「コンテスト」にし たことで児童のやる 気が向上した。何度 もチャレンジし、合 格しようと努力し、 児童の自信につなが った。	◎

重点的な取組事項－２		健康な心身の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> ・自他を認め尊重する態度、あたたかな人間関係を各学級基盤に定着させる。 ・年間を通じた体力向上へ向けての取組を積極的に行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・年3回のいじめ調査において、対応後、すべて解決する。 ・日常の体育の時間から計画的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ調査で出てきた課題はすぐに聞き取り、対応し解決した。 ・体育の時間の他、家庭で取り組むカードを成し、計画的に取り組んだ。 	日常できる体力向上策に来年度も発展的に取り組む。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
挨拶の励行	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時や来校者への挨拶の徹底。 ・家庭・地域への啓発。 	保護者アンケートでは、前期後期の肯定的評価平均が81.6%。	来校者への挨拶が引き続きの課題である。来年度は、6年生を中心に、挨拶をさらに広めていく。	○
いじめの解消・不登校の解消	いじめの解消 100% 不登校の解消 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策委員会、特別支援校内委員会の活性化を図る。 ・スクールカウンセラー・関係機関との連携。 ・道徳授業、学級活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向の5名に関しては、個々に対応中。いじめ防止対策委員会・特別支援校内委員会を毎月1回開き、いじめの解消率を100%にした。不登校の解消は個々の事情もあり、100%に至っていない。 ・道徳授業は、土曜授業の公開時に分散参観でも見てもらえるように設定し、公開講座も実施。 	道徳授業の公開を行い、保護者・地域向けの講座を本校教員が講師となり、実施した。全校朝会等の校長講話で、人権やいじめ防止等の話を6回実施。引き続き、組織で対応していく。	○
体育的活動の充実	体力向上に向け、年間を通して全校で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・体力調査の項目について、体育授業の始め5分に取り入れ、年間を通じて向上を図る。 ・中休みの外遊び（体育館遊び）を充実させる。 	体力調査の結果をもとに、体育授業の始め5分に取り入れる運動を周知し、実施したことやふちえパークを体育館に設定して活用した。音読カードに体力向上のための運動を取り入れ、家庭でも取り組むようにした。	年間を通して体力向上を意識して取り組んできた。縄跳び旬間や持久走旬間も実施した。中休みは全校で外遊びを意識させた。来年度も継続する。	○

重点的な取組事項－3		家庭・地域との連携			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校・家庭・地域の中に、「家庭・地域と共に育つ学校」という共通意識をもつ。		学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価85%以上	保護者アンケート「連携について」3項目平均74.9%	連携については様々実施してきたが74.9%の結果から、発信が不足していたと考える。今後、発信に努めていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域や地域人材を活用した教材の開発	各学年2回以上実施	1,2年は生活科で公園探検や地域探検、3～6年は社会・総合的な学習の時間での地域人材や外部機関との連携学習を実施する。	1年2回、2年4回、3年7回、4年5回、5年3回、6年3回と地域や地域人材を活用して学習に取り組むことができた。それ以外に学校全体では2回実施できた。	今後もつながりを大切にし、地域人材や外部機関との連携学習を実施していく。	◎
幼稚園・保育園との連携	1 幼稚園・1 保育園との連携活動の推進	保育園との交流活動、行事への参加、教員の交流研修等の計画的な実施。	保育園児の校舎内見学と図書室利用、音楽会リハーサル1年の参観、幼稚園児・保育園児の給食体験、校長の保育園保護者会への参加、1年生が企画した「学校体験」への園児招待による直接交流、図書委員会児童の読み聞かせ動画作成、1年担任による保育園児への出前事業等を実施した。	できることを考え、実施してきた。2月には、園児と1年生の直接交流もできた。今後も工夫しながら進めていきたい。	○
小中連携	渌江中学校・渌江第一小学校とともに授業研究の交流6回とその他の交流3回を実施。	8分科会に分かれての授業改善と評価についての研究・研修を実施。	小中連携研修会は8分科会に分け、授業研究2回、授業公開2回、研修会3回の計7回実施した。その他、部活体験と、演劇鑑賞を実施した。	来年度は、リモートも活用しながら内容の充実を図っていく。	◎
保護者による年間2回の学校評価の実施	2回の学校評価アンケートの平均回収率70%以上	年2回アンケートを実施。変容の分析と課題への迅速な対応・改善。	保護者による年間2回の学校評価を実施し、回収率は82.1%。また、保護者の意見に対しても個々に丁寧に対応することができた。	いただいた意見等にお答えし改善してきた。引き続き地域・保護者の声を取り入れ、教育活動を進めていく。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学力向上アクションプランについて

【課題】・4月の区調査において国語では、通過率が78.4%であり昨年度より-1.4ポイント、算数では、81.1%であり昨年度より+3ポイントとなった。また、2月に実施した現学年の調査では、国語83.9%算数83.4%の通過率となり、特に国語で力を付けてきている。しかし、継続して読解力の向上や書かれていることや問われていることを根気よく正しく理解できるようになることが必要である。

【対策】・週1時間、読解力・思考力育成のため、「けやきタイム」を全学年導入し、活用力を育てる教材を使用して国語・算数の指導をしてきた。今後も読み取りの仕方について継続して指導をしていく。算数では、習熟の図れていない単元について指導のし直しも行ってきた。児童も教職員も一つ一つ、やるべきことを丁寧なことを常に意識して日々努力を重ねてきた。次年度も引き続き取り組んでいく。今年度始めた長期休業前の「算数・漢字コンテスト」では、児童の取組意欲を高めることができ、夏冬共に、9割の児童が合格することができ、成果が表れたので、引き続き取り組む。ICTの活用については、教員研修を充実させ、児童の活用の場も広げることができている。AIドリルを朝のパワーアップタイムに引き続き取り入れ、個に応じた課題に取り組ませることで、一人一人の課題克服を図っていく。中核校としての外国語活動・外国語科の研究では全学年授業公開を実施し、講師の先生の指導を受ける中で教員は授業力を向上させている。今年度までの取組を土台に、来年度さらに発展させていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

コロナ禍ではありますが、少しずつ以前の形で進めることができるようになってきました。教員は日々授業改善しながら毎日の授業に取り組んでいます。また外国語活動・外国語科の研究にも取組、教員の授業力も向上してきています。放課後補充教室である「放課後けやき教室」では子供たちと個別に向き合い、基礎・基本の定着に努力しております。4月の学力調査は前年度より+0.8%の結果が出ました。日々の地道な取組の成果が出て、10月の再調査では約88.1%の児童が前年度までの学習内容をクリアしました。また、PTAや開かれた学校づくり協議会の皆様のご協力の下、理科園芸委員の児童と共に花いっぱい活動に取り組み、優秀賞を足立区からいただきました。今年度は昨年度以上に生活科や総合的な学習の時間等で地域に出かけたり地域の皆様のご協力を得たりと、活動の範囲を広げることができ、1年3回、2年4回、3年7回、4年5回、5年3回、6年3回、地域や地域の皆様のご協力を得た学習に取り組むことができました。その他、学校全体では2回実施できました。今後は、発信に努め、地域・社会に開かれた学校として、地域や地域の皆様のご協力をいただき、学習を充実させていきたいと思っています。今後も「地域の中の淵江小学校」として活動させていただきます。「笑顔あふれる淵江小」を常に目標に掲げ、進化し続けたいと考えています。

(3) その他（学校教育活動全般について）

足立区教育委員会指導力向上中核校（外国語活動・外国語科）として、研究をすすめて3年目を終えた。指導が変われば授業が変わり、児童も成長を続けている。今年度は、今までの研究成果を発表する、研究発表会（中間報告）を実施し研究成果を区内に広めることができた。特別活動の集会や行事等も工夫しながら実施することができ、児童に様々な経験を積ませることができた。特に高学年児童にとっては、大きな自信となり成長につながった。4月の学力調査から10月の再調査では、88.1%の児童が目標を達成した。生活面では、友達に気持ちを上手く伝えられず、勘違いからトラブルに発展することもあった。相手の気持ちにたてず友達を傷つけてしまうことや言葉の使い方が乱暴になる場面も見られた。今後も組織的に対応と指導を行い、あたたかな人間関係を育んでいく。あいさつの取組は、校舎内や来客等にもできる児童が増えているので、今後も継続して取り組んでいく。体力向上に向けては、コロナ禍で体力低下の実態が明らかになっている。年間を通した体力向上策を引き続き取り入れ、向上を図っていく。本校の伝統である、「落語・俳句・将棋・百人一首」にも多くの方が関わってくださるおかげで、児童も活躍の場を広げている。今後も、保護者・地域の皆様との連携を密にし、協力をいただきながら、学校・保護者・地域が一つになって「笑顔あふれる淵江小」にしていく。そのために、日々生じる課題に迅速に対応しながら、持続可能な活動を模索していきたい。

